

出前講座 報告書

開催日時	平成28年11月9日(水) 17時55分～20時00分		
開催場所	芭蕉翁記念館		
申請団体等名称	公益財団法人芭蕉翁顕彰会		
テーマ	伊賀における芭蕉翁顕彰事業について(市の役割と顕彰会の役割)		
委員会名等	総務常任委員会		
出席議員	安本美栄子、福田香織、田中 覚、福岡正康、近森正利、百上真奈、前田孝也		
		記録者	福田香織

【講座・意見交換等の主な内容、対応等】

○指定管理期間について

- ・顕彰会としては、新芭蕉翁記念館の完成に合わせて市の直営になると理解し、十分に時間をかけて準備をしていくつもりであったが、1年後には直営ということでギャップができた。2年では何も考えられないので、もう少し時間が欲しい。新記念館が出来るまで2、3年かけて準備をすべきと考える。
- ・(仮称)芭蕉翁記念館事業計画検討委員会に顕彰会の会長、副会長が参画している中で、建設場所さえ決定していないのに、直営化の時期のみを前倒しにするのは納得がいかない。
- ・以前勤めていた学芸員が2人とも辞めたが、指定管理期間が決まっている中で学芸員を育てるのは困難であり、大きな問題である。

○財政面について

- ・財政の締め付けが厳しく、平成18年まで学芸員の人件費は市から出ており身分の保障ができていたが、その後は市長に要望しても聞き入れてもらえず、支援がないと運営が難しい。
- ・「自由に運営を」と言われても、財源もなく存続していけない。市と話しても、折り合いが付かない。
- ・直営化により、財産が市に移ると、顕彰会は立ち行かなくなる。
- ・館長は運営の要であるので、館長の給料は市で持ってもらいたい。

○今後について

- ・顕彰事業は市が中心になってやるべきものだと思うが、現在は別々に離れてしまっている。市が担う部分と顕彰会が担う部分を連携を取って行っていきたい。
- ・今後、顕彰会は建物も資料も無い中で、何をやっていくのか。市がしっかりとやっていくのであれば、一定の役目を終えるのだが、顕彰会が70年間やってきたことを、どのように継承していくのか、何も見えてこないのが、委ねられるような状況ではないと思う。
- ・新しい人材が育つまで、ノウハウを持った者が引き継ぎ、繋いでいくべきである。先が見えないので、とても心配である。
- ・市が顕彰事業の将来的なビジョンを示さないと、顕彰会として考えようがない。
- ・現在の記念館の運営状況は3人体制でうまくいっており、伊賀ならではの展示が出来ている。
- ・という自負があるが、このままでは継続していくことは難しい。
- ・学芸員の確保が一番難しいので、早い時期から探さないと良い人材が確保できない。

○その他

- ・顕彰会の成り立ちは、戦後の復興を“芭蕉”を核にしてやっていこうというものであった。近年、芭蕉祭が単なる祭りになっており、当初の意図から離れていっていることを危惧する。
- ・市と顕彰会が対立しているような形になるのは良くない。
- ・市は、学芸員がいない団体に指定管理は出せないと言うが、顕彰会には1,300人の会員がいる。会員組織を失くす訳にはいかない。

伊賀市議会議長 様

平成28年11月15日

議会出前講座実施要綱第11条第1項の規定により提出します。

総務常任委員長 安本 美栄子